



はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和8年6月30日発行

学校HP

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子



手書きの力

6月11日に開幕したサッカーワールドカップ。史上最強と言われる日本チームは、見事予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進みました。「W杯優勝」という大きな目標に向かって懸命に戦う選手たちからあきらめない勇気をもらう国民も多いのではないのでしょうか。何を隠そう私もそのうちの一人です。そんな盛り上がりを見せるワールドカップですが、その日本代表を率いる森保監督が試合中に手書きでメモを取る様子が前回大会もそうでしたが、今回も注目されています。いわゆる「森保メモ」です。そこには、試合経過の中での気付きや選手たちの動きについての内容のほかに、自分や選手を鼓舞する言葉も記されているようです。スポーツの世界も情報化が進む中で、試合中に手書きでメモする姿は、見ている人の興味を引き付けたのかもしれない。



情報化社会の中で「手書き」文化が衰退していることは想像に難くありません。そんな中、こんな研究結果を目にしました。「手書きをする方が記憶に残る。」これはこれまでも聞いたことがあり、私も実際に学生時代から何かを覚える際には、記憶する内容をノートに何度も書いて覚えしました。このことはいろいろな研究や実験でも実証されています。

この結果よりも私の興味を引いたのが、「手書きをする人の方が幸福度が高い」という内容でした。「手書き」と「幸福度」というその関係性にとても興味がわきました。最近、スマホやタブレットでスケジュール管理をしたり、メモを残したりする人が増えています。手で書くことと電子媒体に記録することにどんな違いがあるのかというと、こんなふうに考察されていました。

『手書きの手帳や日記を使うと、時間と向き合いやすくなり、自分らしさにつながる行動や未来に向けた一歩が踏み出しやすくなるようです。さらにそのことは、人生の幸福度につながっていることがわかりました。手帳や日記は、目に見えない時間を可視化することができ、過去・現在・未来といった時間の流れをとらえやすくするツールです。また、ペンを使って自由に書くことで、思考や感情の拡散と収束が進み、心が整うと言われています。アプリやスケジューラーの使用が当たり前になっている今、手書きの手帳や日記は、時間にしっかりと向き合いながら、自身を見つめることができるアイテムと言えるのではないのでしょうか。』

日々IT機器を駆使して、忙しい現代社会を過ごされている方からすると、そんなことはないかと怒られるかもしれませんが、実際に小学校の現場でもタブレットが導入されて久しく、子どもたちが自分の考えや思考のまとめをタブレット上に残していくことが普通になっています。それもこれからの時代を担う子どもには必要不可欠な力です。



しかし、その人の個性や思いがにじみ出る「手書き」の良さも人生を生きていく上での土台を作る小学校では、大切にしたいなと感じます。何かをしてもらった時に書くお礼の手紙、休んだ友達へ書くメッセージ、手書きから伝わる書いた人の思いが、その人が書いた文字を通して伝わってくる。なんか素敵です。そんな文化をこれからも大事にしていきたいなと思います。たまには、懐かしい友達や日頃お世話になっている方へ手書きのお手紙を送ることも、ラインやチャットでは感じられないぬくもりやより伝えたい気持ちが届き、もらった方もそれはとてもとてもうれしい気持ちになります。自分も相手もその幸福度を上げる。そんな手書きということをもう一度見つめ直すのもいいかなと考えます。森保監督も手書きで残した自分や選手へのメッセージが現実の結果として表れ、さぞ幸福度も上がっているにちがいありません。

明日から7月に入り、1学期も残すところ、17日となりました。これからますます暑い時期を迎え、熱中症にならないようさらに生活のリズムを整えることや栄養ある食事をし、体調管理に努めていただくことになります。子どもたちが、1学期の自分の頑張りに満足し、2学期に向けて、よりよい足固めとなる充実した1学期となるように教職員一同最後まで最善を尽くしてまいります。7月も保護者・地域の皆様の変わらぬ、ご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



校長 亀井 敬介 教職員一同